

2018

6-7月

はしかけニューズレター

2018年度 第2号 通巻141号

2018年(平成30年)6月1日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・大塚・大槻・楊)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.biwahaku.jp>

(注意) 昨年末よりメール アドレス および HP アドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 新担当からのご挨拶

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバりはしかけ
(11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
(15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人

3. 新設を計画中のはしかけグループのご紹介

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ...351人

グループ数 22 グループ

(2018年6月1日現在)

1. 新担当からのご挨拶

このたび、はしかけ制度全般の主担当となりました、交流係の下松です。昨年度は、はしかけの関係では名簿管理や保険の関係、びわ博フェス等を担当していましたが、今年度は制度全般を担当することとなりました。私事ですが、元々は県庁農政水産部の行政職員であります。2年前に博物館博物館に赴任して以来、博物館の交流事業の他に、農業関係特に、農業用水の関係について調査研究を行っております。この分野にご興味をお持ちの方は、お問い合わせ頂ければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、担当させて頂くにあたって、最近のはしかけ制度の傾向について少し調べてみましたが、5年前と比べますとグループ数も15グループから22グループに増え、一時停滞していた会員数も、ここ3～4年間、右肩あがりに増え、5年前の同時期より2割程度増加しています。特に、リニューアル効果もあってか、ここ2年間の増加傾向が顕著です。さらに、今年度は、本号でも紹介しております、「琵琶湖梁山泊」、また、「(仮称) サロン de 湖流」の2グループが誕生予定です。5月のはしかけ登録講座におきましても、両グループの説明を聞いて興味をお持ちになった方が何人かいらっしゃいました。皆様も記事をご覧になって興味を持たれましたら、hashi-adm@biwahaku.jp まで、お問い合わせ下さい。新会員の獲得を目指されているグループにおかれては、会員が増加傾向にある今がチャンスですので、登録講座にて積極的にプレゼンをお願いいたします。私も、担当として「はしかけ」制度をますます盛り上げていきたいと思っております。

また、いよいよ、この7月に「おとなのディスカバリー」と「ディスカバリールーム」がリニューアルオープンとなります。この空間を、はしかけ・フィールドレポーターの活動を発信できる場として、また、来館者と交流を深める場として、どのように機能させていくか、良く検討していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(下松 孝秀)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ代表アドレス：hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員：松田征也

【活動報告】

■ 3月25日(日) 午前 運営会議 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：10名

次年度計画、総会の進行などについて話し合いました。

■ 3月25日(日) 午後 総会と「環境・ほっと・カフェ」聴講 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：22名

2017年度最後の活動は例年通り、うおの会総会と、写真を見ながらの1年間の振り返りでした。総会では1年間の活動を総括し、その後来年度から新たに1名が運営委員に加わり、13名体制での運営になることや、次年度の計画を承認していただきました。

続いて恒例の「2017年度 写真で振り返るうおの会」です。出席者から「これを聞きにきた。楽しみです。」という言葉も聞かれ、うれしい限りです。写真を見ながら、魚のこと、天気のこと、見えた景色のこと、などなど思い出話に花を咲かせていました。

総会後は、同じ会場で「環境・ほっと・カフェ・外来種対応の考え方～厄介な生きものはルールも厄介?～」が開催され、希望者はそのまま講演を聴く形となりました。講師は琵琶湖博物館専門学芸員の中井克樹さん。「そもそも外来種とは?」という簡単な疑問から、「外来生物法」や「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」など、外来種に関する法整備について、わかりやすく話してくださいました。印象的だったのは『法律の名前に“外来生物”とあるので「外来生物が規制される」ように考えがちですが、制限されるのは「人の行為」。外来種を持ってくること、所持することなどの人の行為がダメなんです』という言葉。「外来種=悪」というイメージがつきまといますが、その「外来種」を作ったのは人間だということを忘れてはいけない、と感じられた講演でした。(報告 竹元冨矢)

■ 4月15日 第133回定例調査 和邇川

雨天のため中止

【活動予定】

■ 5月20日(日) 第134回定例調査(高島市周辺)

■ 6月17日(日) 第135回定例調査(塩津大川)

■ 7月15日(日) 第136回定例調査(旧石部町～水口町周辺)



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス：hashi-junrei-rekishai@biwahaku.jp

グループ担当職員：橋本道範、渡部圭一

【活動報告】

■ 3月28日(水) 場所：甲賀市水口町 参加者：2名

【年度活動報告・新年度活動計画】を作成

琵琶湖博物館「はしかけ」グループ 「近江 巡礼の歴史勉強会」

【2017年度活動結果・2018年度活動計画】報告書

【会員】 2018年3月現在の会員数3名(担当学芸員：橋本道範、渡部圭一)

【世話役】 福野憲二、吉井 隆、関谷和久

【会の目的】

2017年3月、近江の社寺巡礼について、その歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、また、宗教関係者、郷土

史家、教育関係者、行政関係者など各種専門分野と勉強会、地域見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を発会。“近江の祈り”研究の一つとして、甲賀市で発見された福野家古文書「甲賀准四国設立由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八箇所霊場の調査活動(注)に着手する。

(注)甲賀准四国八十八箇所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に発願された唯一の「写し四国八十八霊場」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの札所には掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録にとどめることに意義があると考えます。

【2017年度活動結果報告】

下記の表の通り、

- ① 「甲賀准四国八十八カ所」に関連した活動を主とし、一カ寺ごとに訪問し、現状を聞き取り一次調査した。
- ② 調査済み寺院を地図上にマッピングし分布図をドラフト作成した。
- ③ 近江の巡礼に興味を持つ一般人を含め参加者9名で第一回意見交換・勉強会を開催。

表「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
5月6日	発起人の永雲寺の訪問調査・住職と面談	甲賀市土山町
5月18日	杉谷息障寺の訪問と石碑調査	甲賀市甲南町
5月29日	甲賀准四国のマッピング	甲賀市水口町
6月7日	和野長福寺の訪問と石碑調査	甲賀市水口町
6月26日	磯尾医王寺の訪問と石碑調査	甲賀市甲南町
7月9日	甲賀・甲南方面14ヶ寺の訪問と石碑調査	甲賀町・甲南町
7月11日	土山方面16ヶ寺の訪問と石碑調査	甲賀市土山町
7月12日	甲南・水口方面10ヶ寺の訪問と石碑調査	甲南町・水口町
7月17日	水口・土山9ヶ寺の訪問と石碑調査	水口町・土山町
7月20日	湖南市方面12ヶ寺の訪問と石碑調査	湖南市
7月22日	調査結果のまとめ	甲賀市水口町
7月24日	信楽4ヶ寺と山上大師堂の訪問と石碑調査	信楽町・水口町
8月17日	調査結果の報告と打ち合わせ	琵琶湖博物館
9月3日	「西国三十三所観音巡礼の世界」講演会を聴講	安土城考古博物館
9月26日	勉強会を開催(9名参加)	琵琶湖博物館
11月6日	檜尾寺文珠院の訪問調査、住職と面談	甲賀市甲南町
11月13日	稗谷安楽寺の訪問調査、住職と面談	甲賀市甲南町
12月11日	甲賀准四国発願者墓所の記念碑調査	甲賀市甲南町
12月20日	檜尾寺文珠院の再訪調査、住職と面談	甲賀市甲南町
12月25日	稗谷安楽寺の再訪調査、住職と面談	甲賀市甲南町
2月25日	飯道山ハイキングと飯道寺・広徳寺の訪問調査	信楽町・水口町
3月3日	「飯道山と甲賀の信仰」史料展を開催	貴生川公民館

【2018年度活動計画】

- ① 「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ② ①の調査済み寺院を地図上にマッピングし分布図の内容を充実する。
- ③ 今秋を目標として、「甲賀准四国八十八カ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催する。
- ④ 徒歩による「甲賀准四国八十八カ所」巡礼を行い所要時間、踏査距離等の記録採取。
- ⑤ 2019年3月「近江 巡礼の歴史勉強会」 総会開催予定

■ 4月10日(火) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

水口町宇川の永昌寺再訪(第55番札所)天台宗、本尊地藏菩薩は国指定重要文化財
寺伝によると綾野天満宮の別当寺で、享保年間に飯道山智積院の僧靈澄の時に比叡山末寺となったと伝えられている。本堂
左には独自の弘法大師像が祀られていて掛額も立派なものがある。住職は不在で面談はできなかったが、甲賀准四国の大師
像と掛額の確認ができた。



■ 5月13日(日) 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 1名

はしかけ登録講座でプレゼン実施

聴講された方から「近江 巡礼の歴史勉強会」に参加の問い合わせがありました。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「甲賀准四国八十八カ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催に向けた準備を進める。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

■ 3月25日(日) スケッチおよび吟行句会 場所: 寿長生の郷 参加者: 6名

梅のさかりは過ぎたものの、山野草や水芭蕉などが咲いており、スケッチや吟行を楽しみました。

■ 4月22日(日) スケッチおよび吟行句会 場所: 葛川 参加者: 6名

カジカガエルの声を聞くことが出来ました。

朽木へ足をのばしたグループは析餅入りのおぜんざいをいただいて句会を行いました。

※2018年5月27日(日)の活動につきましては、次回ご報告の予定です。

【活動予定】

■ 6月24日(日)

あじさい園(守山市)にてスケッチ、および吟行。

■ 7月22日(日)

琵琶湖博物館(草津市)にてスケッチ、および吟行。

※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■ 3月28日(水) 参加者: 3名

地機織り。その他作業。

■ 4月11日(水) 参加者: 4名

学者があったため、綿から糸紡ぎの説明をしました。また、前回から引き続き地機織りを継続しました。

■ 4月28日(土) 参加者: 3名

小麦粉で糊を作り、糊付けをしました。前は濃度10%にしたため、硬くなりすぎたので、今回は濃度5%にしました。

お天気が良かったので、糸をさばきながら乾かしました。そのため、糸がくつきすぎず扱いやすくなりました。

■ 5月9日(水) 参加者: 3名

前回糊付けした糸を糸枠に巻く作業をしました。整経の際に2本一度にできるように、茶、紺は糸枠2個ずつに巻き、紺と茶の混合糸は1個に巻きました。



4月28日糊付け

【活動予定】

■ 織姫の会

5月26日(土)、6月6日(水)、30日(土)、7月11日(水)、28日(土) (8月はお休みです)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

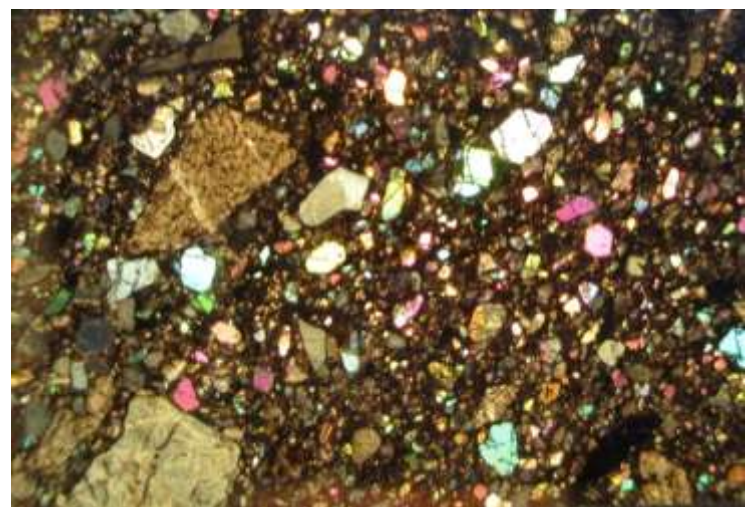
■ 3月の活動 (参加者 9名)

3/5に吾妻川の調査を予定したが、大雨で5月に延期した。

■ 4月21日(土) 10:00-15:30 琵琶湖博物館

2月に実施した薄片試作を中野、里口、三上各氏の指導の下、継続実施した。何回かの試作で技能の獲得が進んだ人もおり、ほぼ目標のものができた人もいた。次月以降、継続実施する。試作の間、隊員は最近見つけた石を3氏に気楽に相談しながら各自の問題点の解明も進めることができる。これは当隊員にとっての大きな利点である。岩石は自然環境の中で予想外に容易に着色する。また酸化等風化も早く、図鑑で見る岩石とは大きく異なることが多い。さらに、斑晶も多様である。多くの植物の場合、枯れると茶色に変色するのは大違いである。その意味で岩石の調査には多くの経験を積んだ先達が必須である。幸い、当隊にはそうしたメンバーがおりありがたい。

試作過程の薄片を中野さんの試作した偏光板に挟み透過光を観察すると岩石の中に大空の銀河のような無限の空間が広がることも分かった。写真を添付します。



【活動予定】

- 5月27日(日) : 吾妻川の調査(3/5計画の再トライ)。雨天の場合は博物館で薄片試作の続行とその報告会、最近の新知見の報告を予定。
- 6月10日(日) : 金勝の石英鉱山跡等のハイキング。予備日6/16(土)
- 7・8月 : 屋内での勉強会を予定(日時は未定)。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

- 4月21日(土) 9:30~12:00 おでかけ撮影会 場所: からすま半島周辺 参加者: 9名

からすま半島の春の生き物を撮影しました。身近なからすま半島ですが、足元にはたくさんの花、そして見渡せば様々な昆虫や鳥がおり、100mほどを進むのに1時間かかるくらいみんな熱心に撮影をしていました。

- 5月12日(土) 9:30~12:00 おでかけ撮影会 場所: からすま半島周辺 参加者: 9名

本来であれば、日野町のシャクナゲ群落を撮影する予定だったのですが、今年は開花が早くゴールデンウィーク中には散ってしまった、ということで、ふたたびからすま半島の自然を撮影しました。近くで鳴くキジ、湖岸のトンボなど1か月経ただけでも様々な生き物が変わっており、いろいろ撮影ができました。

【活動予定】

- 6月24日(日) 9:30~12:00 おでかけ撮影会 場所: 守山・芦刈園ほか

守山市内のアジサイの名所、芦刈園で梅雨時のアジサイを撮影します。このほか、赤野井湾周辺の自然も撮影する予定です。参加される方は、金尾学芸員(kanao-shigefumi@biwahaku.jp)までご連絡ください。



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 98 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 3月31日(土) 13:30~16:00 昆虫化石の勉強会・総会 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 16名

活動内容: 「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の第六次発掘調査に向け、琵琶湖博物館の八尋学芸員による昆虫化石についての勉強会を行いました。これまでに多賀の発掘現場で見つかっている昆虫化石の種類についてや、昆虫についての基礎知識、発掘現場で昆虫化石を判別するための手がかりや保存の方法などを、とてもわかりやすく丁寧に教えていただきました。勉強会で学んだことをいかして、発掘現場で昆虫化石を見つけたいと思いました。

勉強会の後に総会を行い、前年度の活動報告や今年度の活動内容について、話し合いました。

■ 「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」第六次発掘調査に参加 発掘調査期間: 4月21日(土)~30日(月)

場所: 滋賀県犬上郡多賀町 参加者(発掘期間中におけるのべ人数): 82名

活動内容: 多賀町で行われた「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」第六次発掘調査に参加しました。メンバーそれぞれが、自分たちが現場で出来る役割を自主的に見つけ、発掘に参加しておられた専門班や多賀町の方々と協力しながら、発掘作業などに取り組みました。

活動のポイントとしては、地層を意識しながら、自分達が今、どの位置でどのくらいの深さを発掘しているか考えながら発掘作業をすること、見つかった化石はその場で見せ合い、化石の形状や産出状況を学ぶことなどを心がけました。

日替わりで行われていた勉強会では、積極的に質問をしながら、多くのことを学ぶことができました。昨年の第五次発掘調査に引き続き、今年度も微小な化石を探す調査研究をはしかけ活動として行う予定で、そのための土の採取を行いました。また、発掘現場で行われた親子化石発掘体験のお手伝いを通じて、多賀町の皆様と交流を深めることもできました。参加したメンバー達は、日焼けした笑顔で充実した発掘調査期間を終えることができました。

【活動予定】

■ 6月3日(日) 13:30~ 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4 名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 4月21日土曜日は、ディスカバリー関連イベントと活動場所が重なってしまったため、紙芝居の開催時間を変更し、一回だけの活動となりました。いつものように、年齢の低い子どもたちと一緒に紙芝居を楽しみ、最後に「生きている琵琶湖」の歌を歌ったところ、もう一度歌を聞きたいと言ってくれる子どもさんがおり、とてもうれしい気持ちになりました。

今回は、紙芝居の上演回数が一回であったので、「ウンチくんの冒険」という紙芝居を2本目に上演しました。小さな子どもでも「ウンチ」という言葉には面白そうに反応してくれます。しかし、2本目の紙芝居としては少しお話が長いので、いつも集まってくれる子ども達には、少し難しいようでした。今年度は、もう少し低年齢の子ども達にも楽しめる、新しいお話を考えていこうという話し合いをしました。

【活動予定】

■ 6月30日(日) 13:00~ 交流室2集合 紙芝居上演



(10) ゼ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

2018年度、最初のイベントは6月の虹色傘づくりです。梅雨の時期に、折り紙でカラフルな傘を作ります。先日、メンバーから驚きの連絡が！昨年、生活実験工房の畑に植えたお手玉用のジュズダマが、今年も芽を出している！今年もたくさん実りますように。ディスカバリールームは新しいスタッフも迎えて、いよいよリニューアルオープンに向けてラストスパートです。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ講座	5月13日(日)	はしかけ登録講座	活動紹介をしました。
準備	5月20日(日)	虹色傘づくり！準備	6月実施予定のイベント準備 はしかけ1名

～メンバーからのメッセージ～Vol. 43

今年度、ゼ！ディスカバはしかけの副担当となりました妹尾です。7月にはディスカバリールームがリニューアルを迎え、ますますパワーアップする予定です。関連したイベントが何かできたらいいなとひそかに思っています。子どもも大人も楽しく活動できるゼ！ディスカバはしかけのイベントをサポートできるよう頑張っていきます。どうぞよろしくお願い致します。

副担当学芸員 妹尾裕介

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ イベント	6月23日(土) ①13:30- ②14:30-	虹色傘づくり	折り紙でカラフルなミニチュアの傘を作ります。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp (登録会員数: 36名) グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■ 4月15日(日) 里山体験教室 下見・里山ハイキング 参加者: 10名

午前中は、里山体験教室の下見を行いました。琵琶湖博物館 担当職員の山本さんより里山体験教室参加者の年代・人数確認、名札作り後にする整備場所の確認後、小雨が降るところ、春の里山体験教室の観察場所の下見を行いました。昼食は上にあるトイレ近くの東屋でとりました。

午後は、里山体験教室会場周辺で里山ハイキングを行いました。宮本さんの案内で用意して頂いた地図を参考に城山に登山しました。前田さんからの小提城山城遺跡の資料により残っている城の石垣を観察しながら、途中岩をロープで登るところもあり、360度景色を見渡せる山頂に着きました。雨後の山道を無事下山し、春の山の自然を身体で感じた1日でした。

※柳原さん飯田さんは、ドングリ苗の植林、山桜の苗を育てて山に還す活動をされました。(山桜の苗を育てて1メートルくらいになったら、はしかげの森へ持って来て植えます。希望者は持ち帰りました。) 松里



■ 4月22日(日) 里山体験教室本番 参加者: 68名



天気にも恵まれ、当初計画より参加者も増え大変にぎやかな里山体験教室となりました。まずは、里山の散策を始める前に、里山とはどんなところか、森と人の関わりはどんなことがあったのかなどのお話をしました。その後、里山の恵み「山菜」にスポットを当て、森の中にある食べられる植物を観察しながら約1時間半の里山散策を行いました。はしかげの森に戻って、昼食時には取り立ての山菜を天ぷらにしてみんなで試食しました。普段は野菜を全然食べない子どもがいっぱい食べました！人生で一番おいしい天ぷらでした！など、参加者から喜びの感想をいただきました。



午後はもう一度里山に関する講習をして、今度は里山の整備方法について学習した後、みんなで実際に里山の整備作業をしました。短い時間でしたが、人数が多かったためあっという間に山が整備されて、今後の活動も気持ちよく実施できそうな気持ちになりました。 山本



■ 4月30日(月祝) 野洲自然の森体験と山菜パーティ 参加者: 17名



連休前半の4月30日に「野洲川自然の森」で現地採集山菜での天ぷらパーティを開催しました。この場所は野洲市のボランティアグループで整備している旧野洲川河辺林で、竹が密生して荒れ放題になっていた所を切り開き、実生の樹木を保護して落葉樹中心の半自然林回復を目指しています。当日参加者は、子供4名含めて17名でしたが、たまたま遊びに来ていた地元の子連れ家族も招いてにぎやかでした。山菜はタラノメ、ウド、ミツバ、ヨモギ、タンポポ、クズ、ハルジオン、チャの若葉、ニセアカシアの花など種々採集できましたが、やはりタラノメが全体に好評でした。天気が良く新緑も楽しめた一日でした。 宮本



【活動予定】 ■ 6月15日(金) 潮干狩り ■ 7月7日(土) 里山体験教室(夏)下見 ■ 7月16日(月祝) 里山体験教室本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

山々の色も新緑に染まり、ともすると初夏のような陽気となり、植物の活動も例年より早足の気がします。

【活動報告】

■ 4月8日(日) 参加者: 9名

まず、持ち寄ったシロモジ、カエデの花や新芽を分解しながら図鑑と照らし合わせ、花の雌雄、つくり、カエデがウリカエデであることを調べました。

次に、博物館の周囲の観察に出かけ、ハウチワカエデ、カキノキ、タブ、アカメヤナギ、トウカイタンポポ、ムベ、ツガなどを見ました。長年博物館の周りの観察を続けているメンバーも「カキノキの開花を見るのは初めて!」ということでした。「この時期に咲くのかあ」「落ちていないか? 拾って分解してみたい」と言いながら、樹高が高くてあきらめ、画像を撮ることで満足しました。最後、博物館裏口の所では、ツガの花がかわいひ赤い点点に見え、ルーペで観察。アメリカザイフリボクも真っ白に満開となっていました。

その後、持ち帰ったものをそれぞれで観察。ハウチワカエデの深紅の花は、雌しべが先に熟して受粉した後、雄しべが伸びて花粉を出すことも分かりました。外でルーペで見ただけでは分からなかったことも、分解して実態顕微鏡で見ることによって納得がいきます。みんなで「雌しべが先に熟す」「雄しべが先に熟す」「どちらも同時期に熟す」と仮説パターンを考えながら歩くのも、楽しみの1つです。



↑ハウチワカエデ花と新芽

5月20日(日)は、「みずの森」へお出かけ観察会。布谷知夫さんに講師をお願いし、10:30~14:00の予定でお出かけ。この原稿提出は早いので、その日の様子はまた次回号で簡単に報告します。

【活動予定】

- 月に1回、**第1日曜日の午後**を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- **6月 3日(日) 調べたいものを持ち寄って調べよう(この日はカエデを中心にみる予定)**
場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2 時間: 13:30~16:00
- **7月、8月 未定(5月に相談後、決めます)**

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(ˆoˆ)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

たんさいぼうの会第56回総会を、4月7日(土)14時から、草津市まちづくりセンターで開催しました。参加者は10人でした。新たな会員(実はかなり前からの会員で、今回が総会初参加)を迎え、それぞれが進める研究の話などで盛り上がりました。また、木原会長の勇退に伴う役員の再選(押し付け合い?)が行われ、津田久美子さんを新会長に選出しました。ただし津田さんは仕事と育児の両立のため、しばらくはあまり時間がとれないので、臨時に副会長のポストを新設してサポート体制を強化することになりました。終了後はお花見の予定でしたが、今年は生物季節の進行が著しく早く、旧草津川周辺のソメイヨシノは全て散っていたため、食事会のみとしました。

影の会長らは、前号で紹介した琵琶湖からの新種珪藻 *Gomphosphenia biwaensis* に和名をつけました。マイクロアクリウムに投票箱を置いて和名を募ったところ、わずか3週間ほどで318通もの応募がありました。その中から論文著者3名の独断と偏見により、栗東市にお住いのサカイマキさんご提案の「オウミノシズクケイソウ」を選びました。

日本珪藻学会研究集会在、5月19日(土)、20日(日)に、日本歯科大学新潟生命歯学部(新潟市)で開催され、たんさいぼうの会からは影の会長を含め3名が参加しました。今大会ではたんさいぼうの会名義での発表は、連名の1件だけでした(下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義)。

大塚泰介・芝崎美世子・富小由紀・小滝篤夫・高原光・安野敏勝：本州日本海側の更新統から *Pseudopodosira kosugii* の初産出 (ポスター)。

また、会員の所属大学名義での発表が2件ありました (下線はたんさいぼうの会会員)

山本真里子・大塚泰介：干潟堆積物に生息する珪藻の植生—染色法と常法を用いて (口頭)

辻彰洋・服部圭治・大塚泰介：固有種は世界汎布種の起源か—スズキケイソウの起源— (口頭)

古海水準復元の際に有力な証拠となる *Pseudopodosira kosugii* を含む久美浜の化石珪藻については、既に影の会長が中心となって論文を投稿し、現在、審査待ちです。多賀町四手の蒲生層 (前期更新統) の化石珪藻については、光学顕微鏡と電子顕微鏡での観察を併用して詳細な分類学的検討を行い、もう少しで投稿できるところまで来ています。藤前干潟 (名古屋市) の珪藻については、核をヘマトキシリン染色した試料の観察と、その方法では検出できない砂粒に固着した珪藻の常法による観察を併用して、干潟で実際に生活していた珪藻の全体像を把握しようとする (おそらく世界初の) チャレンジを行っています。他にも藤ヶ鳴湿原 (岡山市)、瀬田公園 (大津市)、愛知県の鉦質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

たんさいぼうの会第57回総会を、7月下旬に開催します。日程は調整中です。参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。

通常活動では、現在の勢いをそのままに、引き続き個々の担当の顕微鏡写真撮影・整理・同定、そして論文の執筆を進めていきます。今年度は何本論文出せるかな？



(14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

ゴールデンウィークも終わった時期、多くの田んぼではすでに田植えが終わり、ひよろひよろとしたイネが心細そうに立っています。このニューズレターが届く頃にはこのイネもしっかりと根を張っていることでしょう。そして、私たちの活動もいよいよシーズンインです。これから約ひと月が、田んぼ調査のハイライト。すでに、早い田んぼではカイエビ類が確認でき、捕まえた一部はマイクロアクアリウムでも展示中です。ニューズレターをお読みの皆さん、田んぼの近くを通りがかったら、どうぞのぞいてみてください。水中を泳ぐエビ類が見つかるかもしれません。

【活動報告】

■ 5月13日(日) 10:30~14:30 2018年度調査計画の会

・今年度の調査場所と日程を以下の通り決定しました。

- 5/23 近江八幡市長田町
- 5/26 甲賀市甲賀町高野, 土山町大野
- 5/26 高島市今津町下弘部, 朽木野尻
- 5/29 近江八幡市安土町常楽寺
- 6/ 2 米原市世継, 犬上郡豊郷町吉田
- 6/ 3 竜王町鶴川, 東近江市上平木町
- 6/ 4 長浜市大井町, 米原市村居田
- 6/ 7 or 8 長浜市木之本町黒田, 高月町馬上
- 6/10 瀬田調査

日程未定 大津市八屋戸

日程未定 長浜市湖北町今西, 下八木町

日程未定 東近江市高木町, 下麻生町

日程未定 東近江市福堂町, 栗見新田町

*調査に興味のある方は、担当学芸員までご連絡ください。

■今後の予定

・計画通りに調査に出撃。

(石井千津)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-h-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

<2020年の調査が迫ってきました!>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。2019年が予備調査、2020年が本調査です。

<引き続きメンバー募集中!>

今回の調査に向けて、そろそろ準備したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております!

宣言していた現在のメーリングリストの見直しは、遅ればせながら近日中に実施します。メーリングリストに入れて欲しいというご希望の方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください!>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

【活動報告】

4月と5月は、グループとしての行事は特にありませんでしたが、メンバーのお1人が以前からの定点観察の報告を現在まとめてくださっています。何かの機会にご紹介できればと思います。

【活動予定】

現時点で決まっている活動予定はありません。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子

2018年度最初の活動、4月のちこあそ、つい先日実施した5月の活動の様子を報告します!

◆4月

にぎやかだった3月から、年度が変わり静かになったちこあそ。2才児の親子が3組参加してくださりました。

生活実験工房の裏手には、タケノコがよきによき出ていましたので、みんなで掘ってみることに。草の間にわずかに出ている頭を探して、スコップや鍬で掘り進めます。なかなか根っこ近くまで掘れずに悪戦苦闘しましたが、見事親子でタケノコを掘ることが出来ました。お昼には、早速バンダナおじさんがタケノコ料理を出して下さり、春の味を堪能しました。柔らかくなっている代かき前の田んぼで、泥を踏みながら遊んだり、ガチャコンポンプで遊んだり、初めて会う2才さんも仲良くなった暖かい4月でした。

また、昨年同様神戸大学から、博物館での幼児の学びを研究しようと学生さんが来られました。学生さんにとっても、親子や多様な生き物、新鮮な食は初体験で、子どもたちと同じように体験して学んでもらっています。

◆5月

田んぼに水が入り、カエルたちが喜んでいられるかなと思いながら実施しました。参加者は5月より増えて7組。1才の時にお母さんの背中におぶされて参加していた子どもが、成長して久しぶりに参加してくださりました。半年ほどの間に大きく成長して、虫や水と戯れて遊んでくれるようになったことにスタッフ一同驚きでした。

今回は、バンダナおじさんがお休みということで、恒例となっていた美味しい食体験はなし。とのことでしたが、スタッフ自宅のハチクを持参して、ハチクのタケノコをたき火で焼いてみたり、炒め物にしてみたりと、今回も食体験がありました。また、工房のすぐ横では、クサイチゴの実がなっていて、甘酸っぱい野の味を楽しむこともできました。

6月は第3水曜日の20日を予定しています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。
<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
4月	4月18日(水) 10:00-14:00	あたたかくなりました。春を感じて遊ぼう！ ちこあそ4月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども3人、保護者3人、学生1名
5月	5月16日(水) 10:00-14:00	田んぼに水が入って、カエルも喜んでます！ ちこあそ5月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、子ども9人、保護者7人、学生1名

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
6月	6月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ6月	※毎月おおそ第3水曜日に行います。8月はお休み ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

◆4月の様子



大きな鉢の中には、プランクトンなどの小さな命がたくさん見られました。親子で観察タイム。



工房ウラで、タケノコ掘り。

◆5月の様子



ガチャコンポンプは今回も大人気！



田んぼの泥を体験！（稲のない所に入っていますので、ご安心ください）



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 29名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 3月21日(水・祝) 参加者: 5名

3月の活動では総会とプランクトンとキノコの胞子の観察を行いました。
午前中は参加メンバーの近況報告と今年度前半の活動計画を立てました。
午後は琵琶湖で採集したプランクトンとメンバーが持ってきたキノコの胞子の観察を行いました。



■ 4月8日(日) 参加者: 13名

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では2020年に予定されている「田んぼの生き物全種リスト」の更新に向けてまだ日本の田んぼで記録されていないワムシ探しを行います。

田んぼでのワムシ採集に向けて鈴木隆仁学芸員に「水田微小動物のための空気を読まないサンプリング法」と題して付着性の生き物を採集するための講習を開いて頂きました。

実習室で採集方法の講義を受けた後はザリガニ池と生活実験工房横の桶で実際に採集を行いました。

今回は田んぼでの採集では無かったのですが田んぼで記録の無いワムシは5種以上いるようでした。ただ同定できなかった種類も多かったので個人的には今後の課題に感じました。



ザリガニ池での採集の様子。ビニール袋を使って落ち葉などに付着している生き物を採集した。



Ptygura sp.



Cephalodella apocolea



ワムシ以外の生き物

■ 5月13日(日) 参加者: 11名

生活実験工房周辺でワムシなどの生き物探しを行いました

今回観察したサンプルは繊毛虫が非常にたくさん出現しました。また前回観察したサンプルでもそうだったのですがカシラワムシ (*Cephalodella*) の仲間が何種類か見られました。同じサンプルから一見見分けのつかない種が多く出るので同定や標本の残し方について工夫が必要だと感じました。



Cephelodella catellina

Lecane sp.

【活動予定】

- ・ 6月～8月 田んぼのワムシ調査
- ・ 9月 田上山の湿地調査
- ・ 秋 キノコの孢子観察
- ・ 時期未定 たんさいぼうの会の調査に同行させてもらう

開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(18) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 奥野知之・小林偉真

今年度最初のわくわく探検隊は、「春の植物」を扱った内容でした行いました。工事のため屋外展示の一部が使えない状態でしたが、天気には恵まれよい活動になりました。

【活動報告】

■ 5月12日(土) 「春の草花でしおりを作ろう！」 参加者：32名

はじめに、博士から春の草花についてのお話をいただきました。みなさん真剣に聞かれている姿が印象的でした。

次に、屋外へ出てしおり作りに使う草花の採取を行いました。玄関付近や芝生広場辺りを中心にたくさんの草花を集めることができました。みなさん袋に入りきらないくらいの草花を集めていました。

最後に、しおり作りを行いました。水分を抜くために電子レンジを用いるので、やけどには細心の注意をはらった活動でした。一人1～2枚のしおり作りをして持ち帰っていただきました。みなさん春の訪れを感じるよい機会になりました。



びわたん (おんちゃん)

【活動予定】

- 6月9日(土) 「プランクトンを見よう！」
- 7月14日(土) 「骨にふれてみよう！」

【活動報告】

■ 3月31日(土) 参加者:4名

ポリビアリスザルの解剖、ハシビロガモの嘴の観察を行いました。

■ 4月14日(土) 参加者:2名

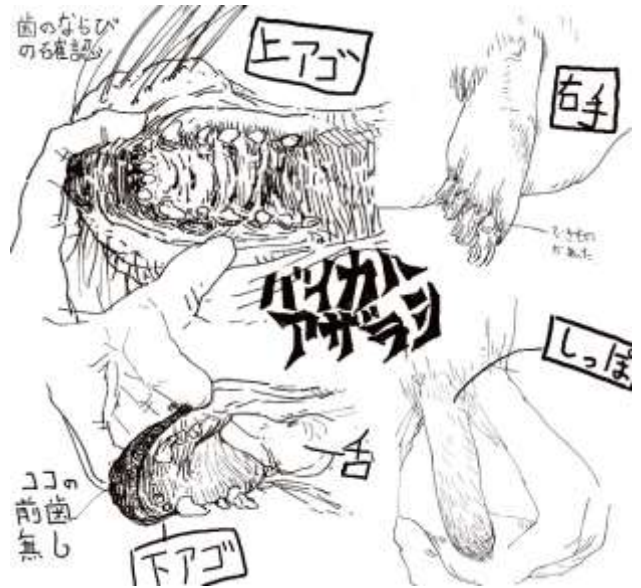
ハクビシンの除肉、標本資料の整理作業を行いました。

■ 4月22日(日) 参加者:5名

ゲンゴロウブナのクリーニング、ポリビアリスザルの除肉、ハクビシンの除肉、豚の脚の除肉(生ハムのもの)、を行いました。

豚の脚の骨を制作されていた方は、お知り合いから譲り受けた生ハムの残りから骨を取り出してみることに挑戦されていました。

ハムの残りなので生のものとは違い、乾燥や変質があるのでなかなか苦労されていた様子、過去に取り組んだことのないものにチャレンジすると、その経験が後々の活動や他の方の参考になっていくので、どんな小さなことでも少しずつ、新しい事に取り組んでいければ良いと思います。



▲バイカルアザラシの部位の様子スケッチです。

画: 西村 有巧

■ 5月6日(日) 参加者名:10名

バイカルアザラシの解剖を行いました。

バイカルアザラシの担当学芸員さんと一緒に活動させていただいて、普段とは一味違った活動になりました。

私たちは普段の活動の影響で、骨を作る事に意識がいくってしまうので、外形や骨の形の違いなどには意識が向くのですが、なかなか軟組織にまでは意識が向いていないのだなという事に気づかされる経験となりました。

普段は見向きもせずに取り除いてしまっている組織、当たり前の事なのですが、その組織が一部だけでも欠けてしまえば、私たちの体はたちまち不調におちいるほどに、繊細で緻密な構造になっているのだという事が実感され、なんだか不思議な心持ちになりました。

■ 5月13日(日) 参加者:3名

はしかけ登録会において活動紹介を行いました。

■ 5月20日(日) 参加者:7名

バイカルアザラシの解剖を行いました。

前回の解剖の続きで、今回は主に皮から脂の層を取り除く作業を行いました。

普段の活動で取り扱う動物の中にも、時期や状態によっては脂を多くため込んでいると思うことはあるのですが、このアザラシは少し今まで取り組んだ動物達とは様子が違うように感じられるほど、その脂の量は多く感じました。

うかがったお話では、これでも同じ種の状態としては脂が少なめなのだとお聞きして信じられない思いになりました。これだけの脂を必要とする生き方とはどんなものなのだろうと考えるとこの種がたどってきた道というものに思いをはせずにはいられません。

【活動予定】

6月は10日(日)と23日(土)に活動を予定しております。

7月の詳しい活動日は現在未定ですが、

月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



【活動報告】

■ 4月 場所: 各自 参加者: 6名

・へちまの種まき

本年度の活動として、へちまの化粧水作りを提案しました。へちまは頻繁に水やりが必要であるため、各自で育てることになりました。へちまのグリーンカーテンとしても利用でき、たわし作りや化粧水作りもできます。化粧水は、グリーンカーテンとしての役割が終わった後、中秋の名月のころに採取するそうです。4月は寒い日が続いていたため、なかなか種から芽が出ないメンバーも多かったです。



■ 5月18日(土) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 8名

・よもぎ染め

緑のくすり箱では、よもぎの利用法について、毎年研究・交流してきましたが、今回は、よもぎを使った草木染に挑戦しました。

カシミアストールの染めを行いました。最初によもぎの刈り取りと、先媒染の作業を2つの班に分けて行いました。よもぎは4kg刈り取ってきて、きれいに洗い、鍋に入れ煮だし、染液を作りました。

新鮮なよもぎを大量にかるのは大変でしたが、通常草木染を行うには、これだけのよもぎが必要になるのだなあと、とても勉強になりました。

1番染料と2番染料を作り、それを混ぜて染める予定でしたが、時間が押していたので、それが出来なかったことが残念でしたが、なんとか発色出来てよかったです。

カシミアストールは、各自持ち帰り、柔軟剤に漬けて干してもらいました。

綿のTシャツは、持ち帰り、染料でよく煮てから、媒染液(ミョウバンを溶かしたもの)につける作業をしました。多少、染むらが出来てしまいましたが、初めてのよもぎ染めはとても楽しかったです。また違う植物でも染めてみたいと思いました。



・よもぎベーグル作り

2年前にも行ったよもぎベーグル作りは、またやりたいという声があり、今年も作りました。

(材料)

強力粉 250g はちみつ 30g ドライイースト 小さじ1 塩 小さじ1/2 めるま湯 140cc

よもぎ(若葉を摘む。塩少々を入れた熱湯で茹で、細かくみじん切り)

- ① よもぎは、すりこぎとすりばちでしっかり繊維をつぶしておく。
- ② 強力粉の半量にドライイーストと、めるま湯に溶かしたはちみつを入れ、よく混ぜる。
- ③ 塩と残りの強力粉をまぜ、よくこねる

- ④ 生地を5つに分割し、15分休ませ、ドーナツ型に成形する。
- ⑤ 30分ほど発酵した後、80℃ぐらいのお湯でさっと茹でる。
- ⑥ 200℃のオーブンで18分～20分焼いて出来上がり。

焼きあがったよもぎベーグルは、ゆであずき、ジャム、バターなどをつけていただきました。以前に作ったよもぎの2倍の量を入れましたが、特に苦くはなく、とてもおいしかったです。作業中は、よもぎのとてもよい香りが実習室にただよっていました。



【活動予定】

■ 6月20日(水) 10:00 ローズマリーチンキのヘッドローション作り 琵琶湖博物館実習室2にて実施します。



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■ 3月18日(土) 10時～15時 話し合いと登録講座での紹介 場所: 琵琶湖博物館 生活工房周辺 参加者: 6名
今後の活動計画の相談、採集用具の整理、点検。午後は、はしかけ登録講座で活動紹介をしました。

■ 4月21日(土) 10時～15時 春先の虫の採集と蝶の幼虫探し、春の山菜取り 場所: 高島市 参加者: 12名
蝶の成虫・幼虫ともに観察できました。ハンミョウなど甲虫も観察できました。



活動の様子



観察できた蝶の幼虫(メスアカミドリシジミ)

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。野外調査は、高島市を中心に分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。(文責: 梶田)

**【活動報告】****■ 3月24日(土) 10:00~12:00 森の観察会&樹木説明版の保守 場所: 屋外展示の森****参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林**

内容: 生活実験工房の北側~田んぼの西側の縄文弥生の森の観察と不要な樹木説明版の回収を行った。生活実験工房の北側はこれまでガイドツアーで利用していないため枯れ木や倒れた支柱などで歩きにくかった。今後整備が必要である。

■ 4月14日(土) 13:00~15:30 樹冠トレイルに設置する案内パネルの検討 場所: 生活実験工房**参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林**

内容: これまでの説明文中の漢字にフリガナをつけた各種案内パネルを見ながら検討を行った。さらに見やすくするため一部写真の変更、説明文の簡略化などを行った。変更点を修正後、動物、昆虫、植物などの担当学芸員にチェックをお願いする。

■ 4月28日(土) 10:00~15:30 外部観察会 場所: マキノ高原 参加者: (会員) 4名 (博物館職員) 林

内容: 標高約170mのマキノ高原から赤坂山に向かって標高約600mのブナの森付近までを散策した。標高の低いところではアカマツ、コナラ、リョウブ、ガマズミ類、ミツバツツジ、レンゲツツジ、アオダモ、クロモジ、サルトリイバラなどが見られた。

標高が高くなるにつれカエデ類、ナナカマド、ブナ、ミズナラなど冷温帯の樹木が多くなり新緑の明るい森で爽快であった。ブナの幼木もそこかしこにありブナの森が継続されると思われる。林床ではシハイスマレ、チゴユリ、イワカガミ、イカリソウ、ニシキゴロモ、カタクリなどの花が咲いていた。多くの植物に出会い、また参加者のいろいろな解説もあり有意義な観察会であった。



ブナの森



イカリソウ



イワカガミ

■ 5月12日(土) 13:30~16:00 屋外展示の観察会 場所: 生活実験工房 参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林

内容: 樹冠トレイル内に設置する予定のオブジェを制作してもらった成安造形大学の学生さんに屋外展示の森を案内した。具体的には森を訪れる動物や縄文弥生の森のシイ、カシ、タブ、ツバキ、太古の森のフウ、スイショウ、メタセコイアなどおよび工事中の樹冠トレイルについてもガイドを行った。

【活動予定】**■ 5月19日(土) 10:00~12:00 内容: 朽木の森ユリノキ祭り参加と観察会 場所: 森林公園「くつきの森」****■ 6月9日(土) 13:30~16:00 内容: クズ、タケ、キカラスウリの伐採 場所: 生活実験工房****■ 6月23日(土) 11:00~15:00 内容: 見学観察会 場所: 栗東自然観察の森**

★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。

3. 新設を計画中的のはしかけグループのご紹介

琵琶湖梁山泊

地域の自然や文化を研究する中高生を中心とした新しいグループです。切磋琢磨する若者を博物館の学芸員や大人メンバーがサポートします。活動としては、研究の相談や勉強会をはじめ、定期的に研究発表会を開催して、研究のレベルアップと学校の枠を越えた相互交流を進めていきます。この活動を通じて、興味関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間と出会うことができます。

(仮称) サロン de 湖流

前号で「琵琶湖地域の物理現象をみんなで考えるグループ (名称未定)」の新設を計画中だとお知らせしましたが、その後「サロン de 湖流」という名称が有力候補になりました。「気軽に語り合う」場にしたいという思いを「サロン」という言葉に込めました。

前号にも書いた通り、琵琶湖地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象、具体的には湖流・河川流・地下水流などの水の動きや降雨・降雪・風・曇りなどの気象現象は、「目の前に見えているものをそのまま観察して理解」するのが困難です。でも、だからこそ、こういう現象について「知りたい」というモヤモヤした思いをお持ちの方も少なくないと思います。そういう思いを語り合える場を作っていけたらと考えています。

語り合う内容として想定されるのは、実際のフィールドでの観測や関連する科学原理に関する実験、そのような観測や実験の結果をどう考えれば良いのか、それを考えるために必要な数学や統計の考え方などになると思います。

できれば夏前ごろまでには、一度集まる機会を設け、皆さんがどういうことに興味をお持ちなのか語り合いたいと思っています。具体的な日程はまだ決めていませんが、興味をお持ちの方は、

担当学芸員の戸田 (toda-takashi@biwahaku.jp) まで御一報ください。

4. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の先日の田植え体験は、あいにくの雨天で一時土砂降りであったにもかかわらず、多くも方の参加をいただき無事終えることができました。

今後の予定ですが、今年度は樹冠トレイル工事の関係で例年実施している7月の昆虫採集イベントは実施しません。次の行事は9月の稲刈りとなりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員：下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 場所：全日程とも生活実験工房

9月9日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種：みずかがみ)

10月7日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種：滋賀羽二重もち)

※一般参加者の受付は、9:30からです。

各自、長靴、着替え等をご用意ください。

5. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなつて、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「http://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者を確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送つて下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) はしかけ活動中に事故が起こつたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。